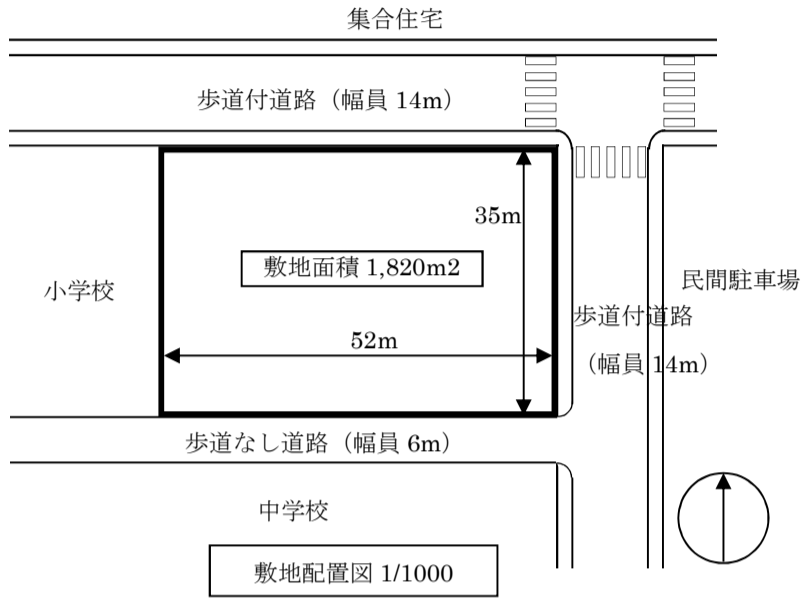


I. 設計条件

この課題は、ある地方都市において、宿泊機能が付加された5階建ての文化スポーツ総合施設を計画するものである。青少年が利用すると共に高齢者を含む地域住民も利用できるものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は準住居地域及び準防火地域にしてされている。また、建ぺい率の限度は70%(角地加算含む)、容積率の限度は300%である。
- 地質調査で支持地盤はGL-2m程度、地下水位は平均GL-2.5mとなっている。
- 日影及び積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造、階数等
地上5階建ての建物とし、構造形式は自由とする。
- 床面積の合計
地階を除く床面積の合計は、3,300m²以上、3,900m²以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー及び屋外階段は、算入しないものとする。なお、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(娯楽スペース、設備スペース等)については、床面積に算入するものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
スポーツ部門	トレーニング室	・マシンコーナー、ヨガコーナー、スタッフルーム、個人指導室を設ける。必要に応じて間仕切りを設ける。 ・上足とする。	約400m ²
	更衣室	・男女別に設け、トレーニング室専用とする。 ・ロッカー、洗面台、シャワー、サウナ、便所を設ける。 ・更衣室で上足に履き替えるものとする。	計約80m ²
	セミナー室	・スポーツ部門用として利用する。	70m ² 以上
文化部門	多目的ホール	・多目的に利用できるホールとする。 ・80名以上が集会できる面積を確保する。 ・倉庫、ホワイエ等を設ける。 ・ホールの天井高さは5m以上とする。	計300m ² 以下
	視聴覚室	・音響室及び倉庫を設ける。 ・40名以上が使える面積を確保する。	適宜
	会議室	・40名以上が利用できる面積を確保する。 ・テーブル・イスを配置する。	
	レファレンスルーム	・誰でも利用できる室とし、書架、キャレル、フリーパソコンスペースを設ける。	約80m ²
宿泊部門	宿泊室	・約25m ² の宿泊室を24室(6-8室/階)設ける。 ・2人用とし、ベッド、テーブル、トイレバスユニット等を設ける。 ・レイアウトは代表的な室だけでよい。	計約600m ²
	ラウンジ	・宿泊者専用とする。	適宜
	リネン庫	・宿泊者用とする。	
共用部門/他	エントランスホール	・風除室を設ける。3階まで吹抜け(面積適宜)とする。 ・トップライトを設ける。 ・市民広場との関係性に配慮する。	適宜
	カフェ	・休憩デッキ及び外部からもアクセスできるものとする。 ・30人程度が利用できるよう、カウンター、テーブル、イス等をレイアウトする。	
	事務室	・エントランスホールに面して案内カウンターを設ける。宿泊チェックインカウンターを兼ねる。 ・8人程度の事務スペースを設ける。	
	宿直室		
	設備スペース	・各自が採用した設備計画に応じて、室外機置場等を計画する。	
・従業員等の通用口、倉庫及びゴミ置場については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室、什器等は、適宜計画する ・図面用紙内に、空調方式、給水方式、受変電設備を書き添えるものとする。			

3. 屋外施設等

- 駐車場は平面駐車とし、車いす利用者用として2台分、管理・サービス用として2台分を設ける。その他は公園内の駐車場を利用する。
- 駐輪場は平面駐輪とし、10台分以上(2.0mx0.5m)を設ける。
- 市民広場に面して休憩デッキ(面積30m²以上)を設け、イス・テーブルを配置する。
- 誰でも集える市民広場(面積200m²以上)を地上に設け、ベンチ植栽等の屋外ファニチャーを配置する。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画、構造計画及び設備計画については、次の点に特に留意して適切に計画する。
- 建築物はバリアフリー、セキュリティに配慮し、主要な室については、自然採光、通風及び日射遮蔽に配慮した計画とする。
 - 各部門について適切にゾーニングした計画とするともに、明快な動線計画とし、かつ避難等にも配慮する。
 - 敷地の周辺環境に配慮すると共に環境負荷低減に配慮する。
 - 地盤条件や経済性を踏まえ、建築物全体の基礎構造を適切に計画する。
 - 宿泊者利用にも配慮して、エレベーターを適切に計画する。
 - 設備機器の搬出入及び更新に配慮した計画とする。
 - 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分には、所定の防火設備を適切に計画する。また、防火区画(面積区画・堅穴区画)が必要な部分には、所定の防火設備を用いて適切に区画する。なお、本建築物は、自動式のスプリンクラー設備等を設けないものとし、また「避難上の安全の検証」を行わないものとする。
 - 避難階又は地上に通ずる2以上の直通階段を適切に計画する。また、必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。

II. 要求図書

答案用紙Iの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Iに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1)1階平面図 兼 配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 主要寸法(スパン割り及び床面積等の算出に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置及び防火設備、防火区画に用いる防火設備の位置及び種別(○特○防等) ホ. 設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)及び電気シャフト(EPS)]の位置 ヘ. 設備計画に応じた設備スペース、断面図の切断位置 チ. 要求室の特記事項に記載している室、スペース、什器等
(2)2階平面図 1/200	② 1階平面図・配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出口(で表示)、通用口(で表示) ロ. 市民広場、休憩デッキ(面積、造作等) ハ. 「敷地内の避難上必要な通路」(ある場合のみ)の経路と幅、通路、植栽等
(3)3階平面図 1/200	③ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2の直通階段に至る歩行経路を図示し、その一に至る歩行距離及び重複区間の長さ ロ. 1階の屋根、庇等となる部分
(3)断面図 1/200	④ 3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. ③イ. に同じ ロ. 2階の屋根、庇等となる部分 ハ. 3-5階が同一平面となる基準階の部分を点線で囲う。 ① 切断位置は、エントランスホールを含み、1階から5階の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向及び鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 建築物の最高の高さ、階高、天井高、各階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 基礎、壁、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表(答案用紙Iに記入)

- 地階を除く、地上1~5階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。また建ぺい率及びその計算式についても記入する。

3. 自己分析(別紙質問シートに記入)

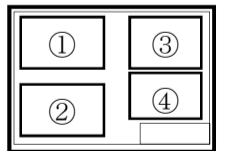
自己分析課題では要点の代わりに自己分析質問シートがありますので、それに回答してください。

4. 図面レイアウト(本試験では解答用紙Iに記載)

- ①配置図兼1階平面図 ②2階平面図 ③3階平面図

- ④断面図・面積表

※ 弊社用紙でなくてもかまいません。



■ 添削について

コース受講生・添削希望者は、図面、質問シート、エスキースを同封して下記住所までお送り下さい。PDFでの送付も受け付けます。切は4月1日(月)消印有効。遅れても必ず添削しますが、ペース配分の目標としてください。添削は約1週間程度でご返却します。
コース2/3/4の方はコース費用に含まれています。それ以外の方は、5,000円で添削、その後、自己分析課題サイトにご招待します。
〒554-0012 大阪市此花区西九条2-7-8-3F 製図試験.com 事務局
送付前に図面は必ずコピーを取ったのち、その原本を4つ折りして角2号封筒を使用してください。速達、書留、宅急便にする必要はありません。